

進路を考える理系の女の子のためのフリーペーパー

Girls Lab. vol.11

理系女子大生コミュニティ凛

企業取材

職業としての研究

「文系就職」を選ぶ

特集

資格 / キャリアプラン

企業取材

チームで働く、社会で働く

03 職業としての研究・開発

04 ライオン株式会社

06 産業技術総合研究所

08 富士ソフト株式会社

転職した人に聞く！

10 理系女子のキャリアプラン

マーケティング、人事、監修 ... 大学までの専門ではないキャリア選択

11 「文系就職」を選ぶ

12 キリンホールディングス

14 株式会社コロプラ

16 まとめ：企業取材を終えて

18 理系の資格取材

栄養士 / 技術士の方へのインタビュー

凧について / その他

20 活動報告

21 メンバー紹介 / 編集後記 / メンバー募集

22 表紙の人について / お知らせ

23 私たちは凧です。

チームで働く、社会で働く

職業としての研究・開発

理系の皆さんが将来について考えるとき、例えば「私は生物を学んできたけど、家電業界に興味がある。畑違いかな?知識や経験は活かせるのかな?」と思うことがあるかもしれません。今回は、大学で学んだ専攻とは異なる分野の研究・開発職で活躍されている方々と、大学の専攻をそのまま活かして活躍されている方々にお話を聞きました。学生時代の専攻と現在の仕事との関わりや、様々なバックグラウンドを持つチームのメンバーと仕事をしていくことについて教えていただきました。

04 ビューティケア商品の開発

ライオン株式会社 石井真悠子さん

06 計量に関する研究

産業技術総合研究所 阿部陽香さん

08 トラブルの分析・マネジメント

富士ソフト株式会社 吉田幸奈さん

社内システムの改修

富士ソフト株式会社 高須さなえさん

ライオン株式会社

石井真悠子さん


大阪大学医学部保健学科検査技術科学専攻卒業

同大学大学院修士課程修了

ビューティケア研究所で製品開発を担当した後、

研究開発本部グローバル開発センターに所属し

東南アジア向け製品の研究開発を担当。



大学では免疫と糖鎖について研究し、現在はフェイスクアの製品開発をしている石井さん。学生時代の専攻と仕事の分野との違いは仕事にどのように影響しているのか？専攻が違う人とチームで働くことの難しさとは？モノ作りの魅力って？聞いてみました！

——大学での専攻について教えてください。

学部生のときは医学部保健学科の検査技術科学専攻に所属していました。病気の研究や、病気を早期に発見・診断するための検査法を研究する専攻です。ほとんどの人が臨床検査技師の資格を取ります。大学卒業後、そのまま臨床検査技師として仕事をする道を選ぶ人もいましたし、私のように修士課程を卒業して企業の研究職に就く人もいました。私は免疫細胞の機能と糖鎖の関係性について研究していました。

——現在行っている仕事について教えてください。

私が主に担当しているのは洗顔フォームやデイクリームなどといったフェイスクア製品の研究開発です。

——具体的には、製品開発のどの過程に携わっていらっしゃるのですか。

製品開発の流れとしては、市場研究から、こういう製品をつくったら売れるんじゃないか、という製品コンセプトをマーケティング担当とともに作って、それに対して組成の開発をしていきます。実現したい性能に合わせて、成分の組み合わせを考えていきます。私は海外向けの製品開発の担当なので、現地担当と協働でお互いの長所を活かして効率よく進められるように、プロジェクト

ごとに業務の役割分担を決めてから進めています。以前は、国内で、『hadakara（ハダカラ）ボディソープ』という製品を担当していました。例えば『hadakara（ハダカラ）ボディソープ』の場合は保湿成分が肌に残ることを特長としていますが、どういうふう成分を組み合わせたら保湿成分をうまく残すことができるかを研究して組成をつくることといったことをしていきます。大学や大学院での研究のイメージとは違う仕事ですね。

——学生の頃の専攻分野と今の仕事の分野は大きく異なると思いますが、大変だったと思う部分はありますか。

私が大学でやっていた領域とはかけ離れているなと思いましたし、抵抗がありました。でも、必要な知識は、仕事をやる中で身につけていくものだと思います。基礎研究をベースにどう製品にしていくかという仕事なので、大学でやってきた事とは違っていいのだと思います。

——では専攻とは違う研究ということでの不安はあまりありませんでしたか。

そうですね。最初はびっくりしましたが、すぐに皆一緒にの境遇だという風に思いました。学生時代に学んだことが全く役に立たないわけではありません。皮膚の保湿や美白というのは細胞に作用するものなので、学生時代に細胞

の研究をしていたことでメカニズムなどは理解しやすいです。

——チームの人に助けられていることはありますか。

今の仕事は、ひとりで黙々と作業を進めるという事が基本的にありません。逆に助けられる環境が当たり前という感じですね。チーム内の人は持っているバックグラウンドや知識がそれぞれ違うので、目の付け所が違います。学術的な部分を起点に考える人もいれば、マーケティング的な観点、生活者にとってどうかという観点の人もいます。勿論、製品開発だと学術的な部分だけでなく、生活者がこの製品をどう実感するかということもとても重要なので、チームに色々なバックグラウンドやマインドの人がいることは、すごく大切だなと思います。バックグラウンドの違いも勿論ですが、社歴の違いも出てきますので、経験によるアドバイスや指摘もたくさんあります。色々な人がいないと広がりが出ないと思いますし、今の仕事はチームじゃないと絶対に進められないなと思っています。

——チーム内ではどういった学部出身の方が多ですか。

生物系もちろんいますし、化学系も多いです。多くの製品に界面活性剤を使うので、界面化学を専攻していた人もいますね。研究職の内容によっては、大学で研究していたことと似たような研究をしている人もいるのかもしれないですが、そういった部所であっても大学の専攻とは全く違った研究をしている方も多いのではないのでしょうか。

——今の会社、仕事を選んだ理由は何かですか。

私がライオンを選んだ理由は、自分に身近な製品の開発がしたかったからです。入社時には大学の専攻を活かせるかもしれない基盤研究や機能性食品の開発への配属をイメージしていました。ですので、ボディソープなどの製品開発への配属には驚きましたが、やりたかったことがより具体的に実現されたという点で、この配属で良かった

たと今では思っています。現在の海外製品の開発業務セクションへの異動は、特に希望していたわけではなかったのですが、今はこの部所での仕事を続けたいです。また、ライオンには「人」の魅力も感じましたね。就職活動を行う中で感じた雰囲気、自分と合っていて、楽しくやっていけそうだなと思い、それが決め手となりました。

——モノ作りの面白いところはどこですか。

これまで世の中になかった新しいものを生み出し、それを生活者が気に入って買ってくれることはとてもワクワクすることだと思っています。私がこれまでの開発経験の中で、特に面白いと思ったことは、開発者側が意図したところと、生活者の受け取り方が違うことでしょうか。弊社の製品領域って、生活の一部となって無意識に使っていることが多くて、その無意識の中で違いを実感したり、良さを実感することは難しいことが多いです。生活者からこちらの意図と違う反応が返ってくるととても面白いし、もっと生活者理解を深めなければ、と日々勉強です。

——理系女子学生に一言お願いします。

頭の中で思っていることを正しく人に伝えるのって、難しいなと感じることがよくあります。そういうコミュニケーションは、いろんな人と話すことで上達すると思っています。学生時代はサークルとか、研究室とか、バイトとか、いろんな人と出会う場面が多いと思いますが、その中でたくさんコミュニケーションをとることは、将来役立つと思いますし、自分の幅が広がると思います。最近は特に男女の壁も少なくなっていますし、働き方も多様化しています。結婚、出産、そういったライフイベントも大切にしながら、仕事でも活躍できると思いますので、いろんなことを前向きに捉えてほしいと思います。そして、大学時代＝就職活動をする時間、では決してないので、まずは貴重な学生生活を満喫してくださいね！

同僚の方にお話を聞いてみました！



生体分子工学科 高分子化学専攻
北東アジア向けハミガキ剤の開発

Q1 石井さんの印象を教えてください。

与えられた仕事は妥協せずやり遂げる責任感が強い方です。技術に偏り過ぎずマーケティング感覚も併せ持ち研究職としてのバランスが良いと思いますね。コミュニケーション能力も高く、国内の関連部所だけでなく海外のパートナーとも円滑に仕事をこなしている印象です。

Q2 異なる専攻の方と仕事をする上で感心したことはありますか。

私とある課題に対して悩んでいると、普段は口数の少ない先輩が完璧な課題解決策をそっと教えてくれてとても助かったことがあります。その課題の分野は先輩の専攻だったことをその時に知りました。



大学 応用化学科、大学院 開放環境科学専攻
東南アジア向けのスキンケア製品の開発

Q1 石井さんの印象を教えてください。

先輩、後輩ともに気さくにお話されているムードメーカーです！仕事以外のこともお話していただけます。他の部所の方にも人気です！

Q2 異なる専攻の方と仕事をする上で感心したことはありますか。

生物系出身の方々は、細胞を扱った経験があり、細胞実験に関する知識や細かい作業を得意とされています。会社に入ったら化学系の知識があればよいかと思っていましたが、自分の専攻外の知識が必要になることも大いにありますので、大学のときにもっと色々なことを学べばよかったと思っています。

国立研究開発法人 産業技術総合研究所

阿部陽香さん

大学では数学、大学院では物理学を専攻。

現在は総務本部ダイバーシティ推進室に所属し、

計量に関する研究を行う。



「今の研究は、大学院での研究がより広がったという感じです」

— 研究職を目指そうと思ったのはなぜですか？

研究が好きだったので何かしら研究ができる仕事を大学の頃から希望していました。大学院在学中もその思いが変わらなかったので、この職業を選びました。

— 大学院ではどのような研究をされていたのですか？

理学研究科の物理学専攻で、低温物理学の研究室に所属していました。極低温・超低温といわれる1 K以下の温度領域で実験できる状態にするには、希釈冷凍機というヘリウムを循環させて冷却させる冷凍機があるのですが、それを使って、ヘリウムの超流動現象に関する研究を行っていました。

— 大学院での研究は大学のころに学んでいたものとは異なるものですか？

全く異なります。大学では数学を専攻していました。大学院で物理学に移っても数学の知識は計算などで少しは役に立ったかなとは思いますが、物理のモノづくりと、デスクでやる数学の計算のようなこととは、大分違う経験でした。

気になる研究所でのお仕事について、仕事内容から就活、女性向けの制度まで、詳しくお聞きしました。

— 専攻を移られるときは不安でしたか？

不安でした。研究内容も変わりましたし、環境もだいぶ変わりました。大学は女子大だったので女性の中で4年間過ごしていましたが、大学院は男性が多い環境でした。慣れるまで非常に時間がかかりました。

— 大学や大学院の頃の経験、スキルで、社会人になって役に立っているものはありますか？

大学院の頃はモノづくりをしながら実験をしていたので、装置等を作るにあたってのノウハウは現在の研究でも非常に役に立っていると感じています。また、研究の温度範囲としては、現在は低温だけではなく広い温度範囲での測定を必要としています。低温での計測技術が高温の測定でも役に立っていると感じています。

— 大学院での研究と今の研究との繋がりがありますか？

そうですね。現在の研究は、大学院での研究がより広がったという感じです。本来の自分の興味としては、大学院での研究にありますが、仕事としての研究も大事ですので、

つながっていることはうれしく感じています。

— 逆に社会人になってから得た学びはありますか。

仕事としての研究は、チーム、プロジェクトとして携わることがあるので、他研究者の方々のいろいろな研究と自分の研究を繋げていくことは勉強できているかと思っています。大学院での研究は、一つの研究課題を担当し、それをどのように他の研究と繋げて、広げていくかということはあまり考えていませんでした。産総研に入所して、いろいろな方の研究が自分の研究とつながって役に立つことや、周りの研究を知る機会が増えたことはとても良かったです。

— 研究はどのような体制で行っているのですか。

産総研には7つの研究領域があり、その領域に様々な研究部門、研究グループがあります。私の研究グループでは、グループ内で一人ひとりの担当研究があり、チームやグループで研究するというよりは、担当の研究を個人で進めていくイメージです。担当の研究内容が大学や企業との連携研究につながったりします。

— 今後のキャリアプランを教えてください。

現在の仕事に特に不満はないのでこのまま発展させていきたいと思っています。新しい材料の熱物性評価などに対応するために、新しい装置を開発して、熱物性値をより正確に測れるようにしたいです。今は、仕事としての研究と自分の興味ある研究の二本立てで、どちらも充実しているのでこのまま研究を続けていきたいと思っています。

— 就職活動についてお伺いしたいです。どのようにして仕事を探しましたか。

まず、大学院での研究が、仕事として続けていけるかどうかということを考えました。物理系の研究は、直接産業に繋がらないことが多く、就職後も大学院での研究を継続できている人は本当に少ないと思います。自分の研究を少しでも将来の研究につなげるために、自分が大学院で培ってきたスキルをどのように活かしていけるか、ということ念頭に就職先を探しました。計測標準の研究は、今までやってきた低温技術を使うことができるので、現在役に立っています。

— 就職の情報集めは、どのようにされましたか。

学会などで自分の研究と関連する研究をされている先生や学生・研究者が集まる機会に情報収集を試みました。研究職の公募は、研究所のHPや学会誌などに載っているので、気を付けてみていた時期がありました。

— 就職の際に、女性の先輩を参考にされましたか。

学会、特に物理の分野になると、女性の研究者は少ないのですが、そのような場で女性の研究者にお会いして、お知り合いになってお話を聞いたりするとすこし励みになることはありました。

— 産総研では、研究職の女性は職場になじんでいると感じますか。

研究職の中で女性がなじんでいるかどうか、わたしは特に意識したことはありませんが、女性が少ないだけあって、所内に女性研究者の会があり、女性研究者の交流の場となっています。このような交流が、なじみやすい環境を作っているかもしれません。

— 具体的にどのような会があるのですか。

女性研究者の会では、女性研究者が入所後、毎年4月に新人歓迎会を開催します。新人の方々と面識を持つ機会があると同時に、先輩方との交流の機会になっています。

— この会があってよかったと思ったことはありますか。

そうですね。とても大きい研究所なので、研究棟も離れていて、女性の先輩に会う機会が非常に少ないです。このような会でお知り合いになって、何かあったときにメールをしたり相談できるというところがとても良いところかなと思います。

— 女性の研究者の方から勉強になったことはありますか。

女性ですと、研究を続けながら結婚・子育てなどをすることになりますので、そのあたりの両立について教えて頂き、勉強になりました。

— 産総研では女性向けの制度が充実しているとのことですが、お仕事を探されるときはどのような点にも注目されたのですか。

仕事を探している時は、結婚して子育てするというよりも研究を中心に考えていたので、あまり注目していませんでした。入所後、結婚してから充実しているということを知って、とても良かったと思っています。所内の子育て支援に関する制度は、より良くなっていると感じますので、今後も期待したいです。これから研究職を目指す女性の方には、就職先を選ぶ際、このような情報には注目して頂きたいと思っています。

— 大学生の時にやっておけばよかったことはありますか。

学部生の時に限って言えば、社会のことが良く分かっていなかったのもう少し色々経験しておけばよかったかなと思います。また性格にもよりますが、物事に対して考える時間が多かったのもう少し行動に移した方が良かったかなと感じています。やってみたいと思ったことは、失敗してもいいからやってみたほうが良かったと思います。

— 最後に、中高生、大学生に何かメッセージをお願いします。

目先のことでよくよしたりすることもあるかと思いますが、その先には楽しいこともたくさんあると思います。もうダメだと思うことがあっても、人生を変えられるチャンスはいくらでもあるので、積極的に行動してほしいかなと思います。

富士ソフト株式会社



プログラミングを勉強し続けながらマネジメント業務も行う
吉田さんと高須さん。それぞれのスキルアップのためにど
んな努力をしているのでしょうか？取材してみました！

吉田幸奈さん

情報科学部システム工学科卒業。

システム事業本部プラットフォーム事業部第3技術部第2技術グループに所属。医療系のお客様の案件に参画し、プログラム作成からリリースまでにマネジメント業務を行う。

高須さなえさん

情報学部プログラムコース卒業。

ソリューション事業本部インフォメーションビジネス事業部法人システム部第3技術グループに所属。製造業のお客様の案件に参画し、社内システムの改修業務を行う。

——この会社を選ばれた理由はなんですか。

吉田さん：会社説明会で説明していた女性社員の方のはつらつとした働き方に憧れたからです。私もこんな風に活躍したいと思って、富士ソフトを選びました。

高須さん：お客様と仕様の検討・調整を行う要件定義などの上流工程をメインにしているIT企業が多い中で、富士ソフトでは上流工程だけでなく、プログラミングの業務もできることが決め手でした。就職するならば、実際に自分でプログラミングをしたいと思っていたからです。

——今の仕事の魅力はどんなところにありますか。

高須さん：自分が開発した製品（システム）が完成した時の達成感ですね。

吉田さん：わたしも同じです。加えて、年齢や性別、仕事の内容などが異なる色々な人と関わり合いながらチーム一丸となって仕事ができるのも魅力的なところだと思います。案件を離れても、その時に会った仕事仲間の方々と変わらずに仲がいいことも幸せだと感じますね。

——チームの方と仲がいいのはどうしてでしょうか。

吉田さん：忙しいので、周りとは協力しないとうまく仕事を進められないからかもしれません。同じ職場で同じ製品（システム）を作っているというチーム意識が高かったのだと思います。上司ともとても仲が良いです。

高須さん：私も上司とは凄く仲が良いと思います。分からない事は、上司や先輩にすぐ相談をしています。分からな

いところをうまく伝えて、聞きたいことをいかにうまく聞き出すかは、仕事を効率的に進める秘訣だと思います。お互いに分からないところを教え合うという雰囲気がありますね。

——チームで働くことの難しさを感じたことはありますか。

吉田さん：現在私はプログラミングの業務をすると同時に、チームメンバーの仕事が円滑に進んでいるかマネージメントをする立場にいます。チームは年齢の幅が広いので、年上の方に教える難しさを感じていますね。

高須さん：私も吉田さんと同じように、お客様から作りたいもののイメージを聞いて、チームメンバーにイメージを説明してこんなものを作って下さいと指示しながら、自分もメンバーと一緒にプログラムを作っています。チームメンバーは国籍や年齢、仕事の経歴が違いますので、コミュニケーションは大変ですね。衝突することもあります。私たちがやりたいと思っていることや作って欲しいものには妥協しないようにしています。

——マネージメント力を培うコツはなんですか。

吉田さん：日頃から、上司に相談したり、今までお世話になった上司の方々と飲みに行ったり、電話をしたりして教えてもらっています。

高須さん：マネージメント力について意識していることは、「お客様と接する時は笑顔で」ということです。チームでの接し方については、入社1、2年目の頃につまずいたり、

苦悩したりした所は覚えているので、後輩に同じ思いはさせないようにサポートしています。自分が教わる立場だった時にどう思っていたかを忘れないようにしています。

——チームにおける自分の役割はなんだと思いますか。

吉田さん：私はムードメーカーだと思います。おしゃべりが好きなので、毎日挨拶したり、作業の合間に話したりしています。案件を離れても飲み会に誘われたり、当時の上司の方からは今でも電話がかかってきたりします。お客様にも可愛がってもらっていますね。

高須さん：仕事の面では、プログラムを改修する際のレビューやチェックをしてシステムの品質を守る、まとめるような立ち位置です。

——マネージメントをしながら、今でもプログラミングの業務をされるということですが、普段はどのように勉強をしていますか。

吉田さん：資格の取得を目標にして学んでいます。私はもともと大学で C 言語しか学んでいなかったのですが、社内研修では Java、案件では未経験のプログラム言語が 2 つありました。これらの言語は現場で作業しながら学びました。

高須さん：学生時代に学んでいたプログラム言語は Java ですが、仕事で使うとなると、同じ言語でも若干違います。ですから今でも勉強し続けていますね。目標がないと勉強ができないタイプなので、私も資格取得を目指して勉強しています。

——資格を取得して自分のスキルアップを実感しますか。

吉田さん：実感していますね。机上での勉強だけでプログラミングができるようになるわけではないので、仕事をしながら覚えていきます。仕事で使うプログラム言語の資格を取得した時は、できる事が増えたなと感じ、成長を実感しました。

高須さん：自分でそのプログラム言語を使って仕事をしていくのが、スキルアップにおいて一番の近道だと思います。

——女性のライフイベントについてどうお考えですか。

吉田さん：結婚、出産はしたいですね。富士ソフトは育児支援が充実していて、勤務制度も柔軟で、職場に戻りやすい環境だと思います。このような制度を活用して、結婚、出産しても仕事を続けていきたいです。

高須さん：私も 20 代で結婚したいですね。育休後に職場復帰して時短で働いている先輩がいるので、私もそのような働き方をしたいです。

——仕事を続けたい理由はどのようにですか。

吉田さん：私は何かをしていないと落ち着かない性格なんです。上司や環境に恵まれていると思うので、自分もそう思われるような先輩になりたいですし、これまでの縁をなくしたくないと思っています。

高須さん：今はプログラミングが好きなので続けたいとい

う気持ちがありますね。

——過去の自分に一言お願いします。

吉田さん：「もっと頑張れ」と言いたいです。私は上司に物申すタイプで、「前の案件先の上司やメンバーが良かったな」と口にしてしまうことがありました。現在は私がチーム全体を見る立場になり、過去の自分は甘かったのだと気付かされました。同じ立場に立って初めて、「上司は孤独だったのだろうか」「私があの時上手く立ち回れていれば上司の助けになれていたのかな」と思うようになりました。システムを作ることは頑張っていました、上司と揉めてしまったことに関しては「もうちょっと頑張れよ」と言いたいですね。

高須さん：学生時代はお金が無くて沢山アルバイトをしていました。今は、学生時代の勉強できる時間、学校に行かせてもらっていた時間を無駄にしていたなと思います。学生時代に友達とプログラミングを勉強することはすごく楽しかったですが、今は勉強しようとしても自分一人です。周りの人達と一緒に勉強できる時間や環境は貴重でした。ですので、学生時代の自分には「バイトばかりしないで勉強しておきなよ」と言いたいですね。

同僚の方にお話を聞いてみました！

Q. 専攻が違う方と仕事をしたとき、すごいと思ったことを教えてください。

A. 吉田さんの同僚の方（工学部電気工学専攻）

文系の方のプレゼン資料の構成、詰め込む情報量、文章力にはいつも感心します。

A. 高須さんの同僚の方（情報システム工学専攻）

数学科卒のプロジェクトマネージャーがシステム障害の発生予測、収束期間を確率論を使用してスケジューリングしていました。当社は業務の計画に対する根拠をきちんと示してお客様と合意することが重要なので、お客様に理路整然と説明し、追加作業の費用の合意を取るところに感心しました。

Q. 取材対象の方の仕事に対する印象を教えてください。

A. 吉田さんの同僚の方

柔軟性があり、自身の意見をしっかり持って仕事に臨める人です。現場ではプロジェクトリーダーとして振舞いながら、現場の雰囲気の良い方向へと変えられる存在です。

A. 高須さんの同僚の方

黙々と仕事をこなしていますが、お客様、チームメンバーともしっかりとコミュニケーションを取っています。柔軟に対応できるので、チームのバランスを支える存在です。

転職した人に聞く!

理系女子の キャリアプラン

取材した理系女子

最近「転職」というワードは身近になってきましたが、実際どんな人がどんな仕事に転職しているのでしょうか？転職を選んだ理系女子のキャリアプランについて取材しました。



大湯なつ美さん

大学では高分子化学を専攻し、生体適合性材料の開発を目的とした高分子の分子モデルの合成とその生体適合性の評価を行っていた。繊維メーカーの研究所でフィルムの開発を行ったのち、村田製作所に転職。現在はリチウムイオン電池の新規材料の開発を行っている。

—現在までの職歴と、仕事内容について教えてください。

繊維メーカーの研究所で3年間フィルムの開発を行っていました。仕事内容は、最初の2年間は新規のフィルム材料の開発を行い、次の1年間は食品包装フィルムの開発に携わっていました。その後、今の村田製作所に転職し、現在はリチウムイオン電池の新規材料の開発を行っています。

—前職と現在の職を志望した理由を教えてください。

新卒の就職活動では学生時代の研究を通じて興味を持っていた、高分子に関わる研究開発がしたいと思い、繊維業界・化学業界の研究開発職を志望していました。その中で前職を志望した理由は大学院の研究テーマであった生体適合性材料を開発・製造していたことと開発拠点が関西にあったためです。その後、企業で働く中で化学が必要な業界は化学メーカーだけではなく、電気・機械・電子部品などあらゆる業界で化学の知識が必要なのに気付きました。転職の場合、新卒のような『〇〇社の理系総合職』という募集ではなく、『どの部署でどのような仕事をするか』が明確に示された上での募集になります。そこで前職とは異なる業界で化学の知識が活かせる開発職を志望しました。その中で村田製作所を選んだ理由は前職の開発していた製品の属する製品だったためです。

—転職活動を考えるようになったのはなぜですか。

前職での開発方針に疑問を感じたことと、前職で担当していた業務が重量物を頻繁に扱う仕事で、体力や筋力のな

い私が長く続けられる仕事ではなかったからです。

—転職前の会社で身につけたスキルは転職後の会社で役に立っていますか。

前職では、新規開発に携わることが多く全く何もないところから必要な設備を作ったり、実験系や評価系の構築をするスキルを身に付けてきました。会社は違っても仕事で必要なスキル（実験計画を立てたり、実験装置を使いこなしたり、分析機器を使いこなしたり）は共通しているので、前職で身につけたスキルはどれも現職で役立っています。

—転職活動をしたからこそ気づけた事がありますか。

人脈の重要性です。新卒採用の場合は社内研修などで他部署の方との接点がありましたが、中途入社の場合は社内の人脈を自分で1から作ることになるので苦戦しています。

—転職活動を経て、働くことへの意識は変わりましたか。

特に変わっていません。働くうえで大事にしていることは、『一つ一つの作業をなぜ必要なのかを考えること』です。例えば分析機器を使う時などに何故この手順があるのかを自分がしっかりと理解していないと分析の精度が下がりますし、人に正しく伝えることもできず、自分自身の成長にも繋がらないからです。

—今後のキャリアプランを教えてください。

今は独身なので、5年後には結婚出産、10年後は仕事と育児の両立を経てその先には、チームをまとめられるようなリーダーになりたいと思っています。

—キャリアプランについてアドバイスをお願いします。

必ず初めに決めたキャリアプランを全うしなくてはならないと考えるのではなく、現状最善の目標に向かったキャリアプランを描き、そこから状況や考えが変わったタイミング等『2-3年に一度自身のキャリアプランを見直す』ことが大事だと思います。

—理系女子の読者の方に一言お願いします。

大学では理系女性って特別なものでもなく、当たり前になってきています。しかし社会に出るとまだまだ女性の技術者は少なく、希望しないのに注目を集めることがあります。私自身、そうでした。ただ、それを嫌だと嫌悪するのではなくチャンスだとポジティブに捉え、なりたい自分になれるよう道を切り開いてください。応援しています。



普段のお仕事の様子

マーケティング、人事、監修 ...

大学までの専門ではないキャリア選択

「文系就職」を選ぶ

皆さんは文系就職にどんなイメージを抱いていますか？今回は、理系学生の輝く場所としての文系就職についてお伝えします。お話を聞いたのは、マーケティング部や人事部などで活躍する理系学部出身の女性です。「いわゆる”文系職”に就職をしたら理系で学んできたことは活かせるの？」といった疑問や、「就職の情報収集は大丈夫？」といった不安に答えていただきました。

12 アルコール飲料のマーケティング

キリンビール株式会社 北島苑さん

薬事申請

協和発酵バイオ株式会社 黒木真菜さん

人材マネジメント

協和キリン株式会社 梅野真紀子さん

14 知的財産の管理と監修業務

株式会社コロブラ 阿部芹生さん

キリンホールディングス

理系という括りにとらわれず、いわゆる「文系職」を選んだ3名の女性取材しました。情報集めが難しい文系就職※にかかわる疑問や不安を解決！

※文系就職：文系学部の人も応募できる職種への就職の事

北島 苑さん

キリンビール株式会社

大阪大学理学部化学科卒業。

福岡、大分で営業職として勤務したのち、本社マーケティング部においてビールの商品開発を行う。

黒木 真菜さん

協和発酵バイオ株式会社

長崎大学薬学部薬学科卒業。

品質保証部において、国内の薬事申請業務を経たのち現在は主にアジアの薬事申請を担当する。

梅野 真紀子さん

協和キリン株式会社

慶應義塾大学理工学部応用化学科卒業。

MRとして勤務後、教育研修チームを経て、現在は人事部人材マネジメントグループに所属する。

——当時はどのように就職活動を進めていましたか？

梅野さん：なんで病気が治るんだろうとか、薬ってどうやってできるんだろうとか、漠然とサイエンスに興味を持っていたので医療業界を選びました。企業に就職しようということは決めていたのですが、折角ならば巨大なマーケットで働きたいと思い、製薬企業を選びましたね。私はマスターを取っていないですし、研究者としての道は考えていなかったのですが、実験データと向き合うよりも、対人で仕事を進める方が強みを活せるかな、と思い文系就職することを決めました。職種に関しては、成果が目に見えやすいということで営業を目指しました。

黒木さん：薬剤師の免許を取られる方って、薬局や病院で働くことが多いです。そのような中で、企業で働くことを選んだのは、私がかもともと薬剤師になりたいと思った理由である、人々の健康に貢献できる仕事がしたい、という思いからでした。協和発酵バイオ株式会社の事業の主軸であるアミノ酸は、原薬として使われていますし、化粧品や健康食品など身近なところにも使われています。自社は B to B の企業なので、海外にもお客さまがいらっやいます。世界中にアミノ酸を届けられ、皆さんの生活に役立つ商品

を提供できるところに魅力を感じたので自社を選びました。研究職については、学生時代で研究はお腹いっぱいだったんですね(笑)。研究で新しいものを発見するよりは、正しい書類を作るとか、そういったデスクワークの方が自分には向いているなど思っていました。そういう仕事を通して、お客様の健康に貢献できるというところに魅力を感じて、この職種を選びました。

北島さん：大学では、一生懸命研究をしていましたね。一生懸命やっていたからこそ、自分が本当に楽しいと思うものは何か、研究を長く続けられるのか、ということと向き合うようになりました。結果、社会に出て研究を続けている自分の姿がなかなかイメージできませんでした。自分が本当は何が好きなのかと考えた時に、人と接して、人から影響を受けるのが好きだなと思い、この職種を選びました。

——仕事のやりがいや魅力を教えてください。

梅野さん：自分の視座を上げていくことができることです。人事というのは人材育成だけでなく、経営陣が何を求めているか、会社としてどのような方向に向かわ

くてはならないか、社員にどうなって欲しいか、ということを経営と2人3脚で考える立場です。会社を俯瞰的に見た時に、本当にやるべきことやチャレンジできることに気づけた時にやりがいを感じます。

黒木さん：薬事申請業務では、作成した申請書類が当局に認められないと、自社で製造したアミノ酸を医薬品として使用できません。申請書類の中身に間違いがあると絶対にいけませんので、責任の重い仕事です。だからこそ、承認を得られた時に凄く嬉しく思いますし、同時にやりがいを感じますね。

北島さん：私は、お茶なら生茶、ビールだったら一番搾りというように、「このブランドを飲みたい」とお客さまから思ってもらえるように、日々仮説を立てたり、設計をする事でアプローチをしています。その中で、実際に何人のお客さまが飲んでくれたのかが売り上げの数字となって出てくるんですね。皆さんのお気に入りの商品になるというのは本当に難しいことですが、お客さまが飲んでくれることが数字で現れる時、やりがいを感じますね。

——現在、理系で学んだことは活かされていますか。

北島さん：研究室に所属していたので、1～2年のスパンで、どういう風にリサーチをして、計画を立てて実験をしていくか、ということを考えていました。仕事も同じように色々なプロセスがあるので、研究室で培った一連の経験はすごく活かしているなどと思っています。

梅野さん：直接当時勉強していたことを仕事に使うかといえば、分野が全く違うのでそういう意味では使っていませんね。ただ、協和キリン株式会社は製薬企業なので、医学や薬学とかサイエンスに関わる仕事が多いです。そういった分野に自然に興味湧くので、理系分野を苦手と感じないという部分では活かしていると思います。

黒木さん：大学が薬学部、現在の仕事内容が薬事申請という事もあり、学生の頃に習ったワードが仕事に出てくるんですね。その時に、文系の人だとその言葉を調べる所から始まると思うのですが、私の場合は聞いたことはあるので馴染みがある分、理解しやすいと思っています。

——文系就職をされた時に、周囲の反応は怎么样了か。

梅野さん：私の同級生は8割くらいの方がマスターを取っていましたが、私自身のキャンパスライフが研究にどっぷり浸かったものではなかったですし、私のように文系就職した人は少なくはなかったのも特別なことではなかったと感じます。家族からは就職活動中に、納得のできる就職ができるといいねと背中を押してもらっていました。自分が本当にやりたいことを仕事に選ぶということが大事なかなと思います。

黒木さん：6年制の薬学部に入ったのは薬剤師として働くためだろうという考えを持った教授でしたが、就職先が決まってからは応援して頂きましたね。実はあまり知られていないのですが、企業にも薬剤師は必要なんですよね。例えば、工場だと製造管理者が必要になりますが、それは薬剤師でないといけません。薬学部を卒業したのに薬剤師として働いていないので不思議に思われる事もありますが、自分が資格を持っていることで企業で役立つ事があるかもしれないと思っています。現在の業務でも薬学部で学んだことを活かしていますから、周りも納得してくれていますね。

北島さん：周囲はすごいよかったねと言ってくれましたが、家族は驚いていましたね。理系の多い家系だったということもあって、理系の学部に進学した時点で研究職に就くものだと思われていましたし、研究者になって欲しいと思われていたと思います。文系就職について話した時、父親が最初にすごく驚いていて、反対だったんだろうなと思いますが、最終的には、家族なんだから応援するよ、と複雑そうに言って理解してくれましたね。今では良き応援者ですね。

——今、文系就職をしようかと悩んでいる理系の学生へメッセージをお願いします。

梅野さん：4年間で大学を卒業して就職をするということは、少しでも早く社会に出るといった大きな価値があります。けれど、マスターやドクターに進んだとしても様々な可能性が広がる大きな財産になります。ですから、よく自分の強みを考えて、自分の進みたい道に自分が納得のいくように進路を決めてもらえばいいかなと思います。

黒木さん：文系就職について悩んでいる要因の一つは、就職先についての情報が少ないということではないでしょうか。沢山の情報の中で自分が何をしたいかを考えて選べばいいかなと思うので、情報を沢山集めてみて下さい。どちらを選んだから正解、間違いといったことはないですので、自分が信じた道を進んでいけばいいと思いますよ。

北島さん：当時の自分はやっぱり情報収集という点では足りていなかったんで、自分が進みたいと考えている仕事内容や企業について話を聞くことが大事だと思いますね。私は企業のOB・OG訪問に行かなかったですし、そういうことがあるということも、インターンシップでさえ存在も知りませんでした。周りの協力してくれそうな人に自分からアクションして、情報を得るのが大切だと思います。



株式会社コロプラ

阿部芹生さん

電子工学専攻卒業。

ゲームエンジニア、プランナーとして勤務後、
現在は IP の管理と監修業務を行う。

『コロプラだったら、モノづくりの楽しさを
マックスで味わえると思ったんです。』

好きなことを、大学の専攻とは違う形で実現している阿部さん。読んだら進路の選択肢が一つ増えるかもしれない、そんなインタビューです！

— 阿部さんは元々エンジニアとして入社されたのですよね。

新卒時はゲームのエンジニアとして入社しました。その後プランナーに異動になって、仕事をしていくうちに自分の中でゲーム内だけでなく、リアルでの展開もやってみたいと思い部署異動して、今に至るという感じです。

— そもそも専攻はIT関係ではないとお伺いしました。

専攻は電子工学で、大学院では医療機器の一部分の効率化の研究をしていました。電力伝送の効率化ですね。

— なぜ専攻とは違う仕事を選んだのですか。

幼い時に工作が好きだったんですよ。電子工学とか関係なく、粘土とか木工とかの工作もすごく好きでした。電子とか量子とかの勉強は、パラレルワールドとかタイムマシンとか、ワクワクするような話に関連づくことが多くて、それ面白そう!と思って選んだのが電子工学でした。モノづくりがしたかったっていうのと、量子とか電子とか不思議な現象に興味があった

からって理由ですね。でも、実際に大学院で「電子工学」を利用したモノづくりを経験した際、一つのモノを作るのに、数年から数十年かかるようなこともあったり、実験器具を購入するお金がなく、中々制作が進まなかったり…。と「モノづくりの楽しさ」を感じ難いと思いました。じゃあITだったら、パソコンとかプログラミングの知識があってデザインができれば、自分のアイデアを短期間で安価に実現できるかなと考えました。モノづくりの楽しさをマックスで味わえると思ったんです。

— 現在はグッズ監修やイベントの展開、企画などをしているいらっしゃるということですが、具体的にはどんなお仕事ですか。

業務内容は大きく分けて2つあります。

1つ目が、他社さまがコロプラに関連したグッズやイベントを作る際の監修業務です。他社さまと連携するなかで、コロプラのIP（知的財産）やキャラクターを他社さまにお貸しし、世界観やキャラクター性を加味してキャラクターのイメージを守る業務を行なっています。もう1つが、自社内でのイベントの実施やグッズ制作です。

——新しい部署で勉強することはありますか。

権利周りだったり、法律だったり…と、とてもたくさんあります。ただ、この仕事をする上で一番勉強すべきなのは、担当するコンテンツへの深い理解だと思っています。コンテンツの理解をしていないと、それを利用したモノづくりのディレクションは絶対にできないので…。なので、法律だったり契約だったりを学ぶ時間よりも、コンテンツのプレイ時間の方が圧倒的に長いです。一見してゲームで遊んでいるだけに見えるかもしれませんが、大切な勉強の時間です。

——現在はという風に電子工学分野の趣味と付き合っているのですか。

同じような分野に興味を持っている人は意外と多いです。例えばパラレルワールドが好きな方たちが動画サイトにあげている動画を見ていたりします。そのコメント欄で議論したりもしますね。あとはオカルト系の雑誌を読みあさっていますね。そういう風に付き合っていて、結構楽しんでいます。

——今の仕事にやりがいを感じていますか。

はい。私はこの仕事に就いてみて本当にやりがいを感じています。特にみんなで、知恵を出し合った企画が形になり、結果としてユーザーさまに喜んでもらえる瞬間が何より嬉しいです。今、私にとって仕事は生活の中心です。自分に自信を持ったり、自分を認めてあげられる1番大きな要素になっている気がしますね。

——今後のライフプランについて、どうお考えですか。

仕事をずっと続けていって、キャリアを積み重ねていっ

て、その上で無理なく結婚出産したいなと思っています。コプロラであればそれが実現できていると思っています。

——自分の専攻と全く違う仕事をするのは、不安ではありませんでしたか。

確かに、周りには殆どいなかったですね。みんな医療機器メーカーとかカメラとか、専攻を生かせる職に就きました。でも、自分のキャリアをぐっと変えられるのって新卒時の就職活動の時ぐらいだと思うんです。なんとなく今勉強していることの延長線上だし、という理由で会社に入ってつまらなかった場合、後悔すると思いました。勉強してたことと違う仕事に就いても何とでもなるので、そんなに不安にならなくても大丈夫かなと思います。結果論ですけど、私の。(笑)

——学生の頃の自分に一言お願いします。

大学時代の自分に言うとしたら、「何でもやってみて!」ということですかね。結構不安がりなので、何でも不安になるんです。だからやらないで後悔したことが多いです。怖がらずに挑戦すること、失敗することの大事さは大学の頃はあまりもっていなかった感覚なので、「失敗してもいいから挑戦してみたほうがいいよ」とアドバイスしたいですね。

同僚の方にお話を伺いました!



Aさん
商品企画チーム所属。自社ゲームタイトルのグッズの企画、制作進行管理を担当。

Q1 阿部さんの印象を教えてください。

監修業務の内容は幅広く、承認したものが世の中に出るわけですから責任重大です。細かいところまで気を配れて、判断力のある人でないとやっていけない仕事です。阿部さんは作品に対しても人に対してもそれができる人です。

Q2 チームで働く上で感じることを教えてください。

チームで働くことのやりがいは、やりきった後の達成感をチームで共有できることです。個人では10しかできないことがチームで協力し、それぞれの得意分野を活かすことで100になったとき、達成感もより大きく感じます。



Bさん
ライツチーム所属。自社IPを使用したコラボ企画やグッズの監修、商品企画チームとゲーム開発チームの間に入る仕事を担当。

Q1 阿部さんの印象を教えてください。

阿部さんは、IPの価値を大事にしてどんな業務も真摯に取り組んでいる印象です。IP理解を深める努力は勿論、開発チームの負担をできるだけ減らせるように、監修物をデザインし直して再提案用に仮画像を作成したりと、常に周囲の人が気持ちよく仕事をできるように気を配っています。

Q2 チームで働く上で感じることを教えてください。

チームで働くことの難しさは、担当業務によって目指す着地点が異なることです。期日を守りつつも世に出せるクオリティにまで高めるにはどうすればいいか、全体を見てマネジメントする阿部さんのようなプロジェクトリーダーの存在は欠かせません。

企業取材を終えて

文系就職を選ぶこと

麒麟ホールディングス 北島苑さん

大学で一生懸命研究をしていたからこそ、自分が本当に楽しいと思うものは何か、研究を長く続けられるのか、ということと向き合うようになりました。

株式会社コロブラ 阿部芽生さん

自分のキャリアをぐっと変えられるのって就職活動の時ぐらいだと思うんです。

お二人とも大学生活や就職活動を通して自分の本当に好きなことについて考え、今自分が楽しいと思える仕事でやりがいを持って働いていらっしゃるんですね。

麒麟ホールディングス 黒木真菜さん

悩んでいる要因の一つは、就職先についての情報が少ないということではないでしょうか。

麒麟ホールディングス 北島苑さん

自分が進みたいと考えている仕事の内容や企業について話を聞くこと、周りに自分からアクションして、情報を得ることが大切だと思います。

理系から「文系職」に就くことはメジャーになってきてはいますが選べる進路が沢山あるからこそ、文系学生よりも学生の志望する業界が分散してしまい、情報を集めるのが難しくなるのかもしれない。自分から行動して情報を得る、周りに協力してもらうという姿勢が重要なんですね。

専攻を生かして働くこと

産業技術総合研究所 阿部陽香さん

大学院の研究で身につけた装置を作るノウハウや低温での計測技術は、現在の研究にも役に立っていると感じています。

ライオン株式会社 石井真悠子さん

保湿や美白というのは、皮膚組織や細胞に作用するものなので、学生時代に細胞の研究をしてきた経験は役に立ったなと思いますね。

学生時代の専攻とは違う分野の研究・開発職に進んでも、身につけた知識や経験は活かすことができるんですね。

産業技術総合研究所 阿部陽香さん

いろいろな方の研究が自分の研究とつながって役に立つことや、周りの研究を知る機会が増えたことはとても良かったです。

ライオン株式会社 石井真悠子さん

チームに色々な人がいるのは大切だなって思います。それぞれ持っているバックグラウンドや知識が違うので目の付け所が違います。

富士ソフト株式会社 吉田幸奈さん

年齢や性別、仕事の内容などの異なる色々な人とチーム一丸となって関わり合いながら仕事ができるのは魅力的なところだと思います。

どの組織でも、専攻内容、年齢、性別の異なる人たちが同じチームとして仕事を進めていらっしゃる事が分かります。いろいろなバックグラウンドの人たちによる違う視点からの意見やアドバイスが、より良い研究・開発に繋がっていくんですね。

特集！理系女子大学生にQ&A

理系の女子大学生と一言でいっても、学んでいる分野は様々です。そこで、専攻分野の違う凛メンバー3人に専攻分野について話を聞いてみました！



ちひろ

理学部生物学科3年



なおこ

機械工学科卒
環境エネルギー研究科1年



ゆみ

理工学部応用化学科2年

Q1. 専攻分野や学部学科を選んだ理由は？

ちひろ：小さい頃から生物が好きで、生き物の仕組みや行動そのものに興味がありました！そこで、生物学を応用した医学や農学ではなく、様々な観点から幅広く生物学を学べる理学部生物学科を選びました。

なおこ：機械工学科を選んだのは、目に見えて人の役に立つことができるような分野だと考えたからです。

ゆみ：中高のころから化学が好きだったので、将来もそれに関わる仕事がしたいと思ったからです。その中でも、医薬品や化粧品の開発などに興味があったので応用化学科を選びました。

Q3. 専門分野では具体的にどんな授業を受けているの？

ちひろ：進化・系統・生態・遺伝・生化学・生物物理...など、動物・植物...にわたって幅広く様々な授業があります。1～3年生で基礎的な知識や実験操作を固め、3年生からは徐々に自分たちで実験方法などを考える実習が増えていきます。

なおこ：機械学科だとだいたい4力（材料力学、流体力学、熱力学、機械力学）、設計、実験実習の3つに振り分けられ低学年でこれら学び、研究室に配属前後で研究室に関連するより専門的な授業を取ります。例えば、医療工学の研究室なら医療工学で、他には人間工学、宇宙工学、制御工学などがあります。

ゆみ：今は有機化学、無機化学、物理化学など、様々な化学の基礎を勉強しています。他にも実験に活かせる Excel の使い方（グラフの体裁の整え方やプログラミング）なども勉強しています。また化学実験も週に1回あって、毎週実験レポートを提出しています。

Q5. 週何コマくらい授業がある？やっぱり忙しい？

ちひろ：平均して週11コマくらいです。専門科目が集中していて、学園祭があった2年生後期は特に忙しかったです。3年生からは不定期に集中して実習（実験）があるのでその時期は忙しいです。バイトやサークルをしているので、結局通年で忙しいです（笑）

なおこ：1、2年生は高校と同じくらいコマ数ありました。わずかな空きコマや夜もレポートを書くのに充てていました。1年生のある日は一限から六限まで授業があり、そのときは本当に大変でした。3、4年生は単位をほとんど取りきるので、1、2年次と比べてそこまで忙しくはないです。

ゆみ：1年生は必修科目が多くて週に14コマ程度ありました。2年生は週に10～13コマです。アルバイトも週に2日ほどして、勉強との両立も問題なくできています。どの時期が忙しいとかは特にはないですが、毎週レポートがあるのでいつも眠ってわけではないです。

Q2. 一番面白かった授業は何だった？

ちひろ：発生生物学実習です。他の実習では、あらかじめ設定された実験区・実験方法で実験をするけど、この実習では自分たちで実験方法や仮説を組み立て、仮説を検証しました。ヒトデの受精機構を通じて、研究の一連の流れを自分たちで行うことができたので、とても勉強になったし、楽しかったです。

なおこ：工作実習です。2年生から旋盤、フライス、3Dプリンターなどを習い、金属のサイコロを作ったりしました。中でも印象に残っているのはチームでスターリングエンジンを一から作ったことです。

ゆみ：マテリアルデザインという授業です。スマートフォンや電車など身近なものにどのような化学技術が生かされているのかについて勉強しました。身近なものについてだからこそ化学の凄さを実感し、非常に興味深かったです。

Q4. 卒業生の進路は傾向があったりするの？

ちひろ：学部卒では教師・SE やその他総合職、一般職になる人が多いらしいです。公務員になる人も一定数いると思います。学部卒では研究・開発職に就くことはかなり難しいけど、院進すれば食品などの研究・開発職に就くこともできます。

なおこ：メーカーが一番多いです。ほとんどどの業界で機械が関わっているのもとても幅広いです。メーカー以外では鉄道や航空といった業界が人気です。また、専門分野にとらわれず、コンサル、IT業界に進む方もいます。

ゆみ：私の所属している学科からは化学メーカー、製薬会社、食品会社などへの就職が多いです。大学の教授になる人もちらほらいます。他の学科は分野にもよるけどIT企業や銀行などに就職している人もいます。

Q6. 専攻分野の魅力は？

ちひろ：生物学は、食・医療・環境など、展望が広く見込める分野です。まだ分かっていないことが多いのも魅力的な点だと思います。生き物の振る舞いはとても面白いし、染色した細胞などはとてもきれいなので見ているだけでも楽しいです！

なおこ：実験や実習が多いことです。座学で学んだことが実際に実験や実習を通して考察できることなど魅力に感じます。アピールポイントとして就職率が高いです！

ゆみ：化学はものすごく幅広い分野であり、多くの部分に生かすことができるというところに魅力を感じています。化学を学ぶことで、如何に私たちが化学技術の恩恵を受けているかを実感できます。笑 あと女子率が他の分野に比べて大分高いので心強いです！

理系の資格特集

理系＝資格というイメージがあるのではないのでしょうか？そこで今回は
理系ならではの資格を持って働く理系女子にお話を聞いてみました！

#1 栄養士

栄養士とは？

栄養士は、主に健康な方に、栄養学に基づいてバランスの取れたメニューの作成や栄養指導・給食管理などを行います。主な職場は学校や社員食堂、社会福祉施設などで、スポーツ選手の栄養管理を行うこともあります。栄養士は国家資格で、栄養士養成課程のある大学、短期大学、専門学校を卒業することで取得できます。

—栄養士になろうと思ったきっかけは何ですか。

もともと食べるのが大好きで、母の作るような美味しい料理を作ってみたくて思ったのがきっかけです。そのうち、美味しい料理を作って色々な人に喜んでもらえるようになりたいと思うようになりました。

—調理師免許も持っているそうですが、それぞれの資格はどうやって取得しましたか。

調理師免許は家政科の高校で、栄養士資格は短期大学で取りました。定期考査を受けて卒業できれば資格を取得することができます。どちらの課程にも調理実習があり、資格を取るために一番大変だったのは実習後のノート作りでした。ノートには材料、作り方、感想、反省点や自分で調べた作った料理の応用例を書いていました。調理実習の試験では、くじで引いた国の郷土料理を自分で調べて作ったこともありました。

—面白かった授業は何ですか。

調理実習ですね。栄養論や調理理論といった授業も自然と耳が傾いていましたね。調理師になるための授業は食材の鮮度や食材の栄養素についてなど、食材についての基本的なことや調理技術をメインに学びます。栄養士になるための授業では、食物の消化や栄養素の体の中での働きなど、栄養学についてより詳しいことを学びます。

—現在はどんな仕事をしていますか。

保育園、社員食堂、アスリート食堂などの施設の

業務委託を受けている会社に勤めています。私は有料老人ホームで、入居しているお年寄りの方の食事を毎食作っています。食事の配膳に行く時に、利用者の方が「ありがとう」や「美味しかったよ」と言ってくれることがやりがいになっています。今は責任者業務もやっていて、利用者様の状態を把握して食事制限の情報をやりとりしたり、従業員の勤怠やシフト作成などの事務仕事もしています。学生時代に想像していなかった仕事は、クライアント様と協力して夏祭りやお正月などのイベントを作っていくことです。普段とは違う食事を提供するので、メニューを考えることもあります。

—“資格”のメリットを教えてください。

給与の面でプラスに働きます。それと、資格を持っていると自分を見る周りの目が変わってきます。資格は自分の能力を保証してくれるものなので持っていて良かったなと思います。

—栄養士としての今後の展望を聞かせてください。

今は誰かが考えた献立を作るという仕事が多いので、どちらかと言うと調理師免許の方が活かしている感じ。自分で献立を考えて作るような、栄養士としての知識をもっと活かせるような仕事をしてみたいと思っています。仕事の幅が広がり、給与も上がるので、将来は管理栄養士の資格も取りたいと思っています。

—栄養士を目指す学生に一言お願いします。

机に向かっての勉強も必要だけど、体で感じて勉強をするほうが大事な。料理は自分の身で感じないと分からないことだから、様々な所に行って色々な食事を見て、食べて、勉強したほうが良いと思います。



望月耀音さん

高校で調理師免許、愛国短期大学で栄養士資格を取得。社会人二年目。趣味はジム、ゲーム、カメラ、温泉巡り。

#2 技術士

技術士とは？

科学技術における専門知識と豊富な実務経験を兼ね備えた技術者を認定する国家資格です。21部門あります。最難関資格のため、取得すると技術コンサルタントとして活躍できます。試験は誰にでも受験資格がある一次試験と7年の実務経験を積まないと受験できない二次試験で構成されています。

—現在のお仕事について教えてください。

私は公園の設計をしています。公園の立地にあわせて機能や動線、景観を設定し、ここにこんな植物を植えて、こういうデザインにしてみようなどといった図面を描いています。公園の設計は土木や設備・建築などの知識を浅く広く知っている必要がありますので、視野を広く持ちたい人が向いていると思います。

—大学では何を勉強していましたか。

大学では環境保護の勉強をしていました。大気環境と植物の生育の関係が専門でしたが、緑を増やす仕事をしたと思っていました。公園を作る仕事は緑が増えるな、と思って、当時はあまりこの業界を知らなかったのですが、今の仕事を選びました。

—どのような経緯で技術士という資格を取得されましたか？また勉強法も教えてください。

会社が建設コンサルタントとして国に登録しているため、建設部門の技術士の資格を持っていないと管理技術者として仕事ができなかったからです。技術士にはいろんな部門がありますが、建設部門での取得者が7割くらいになります。建設部門は資格の有無が業績に直結するので取得者が多いです。会社に入社したときから取得する必要があると考えていました。

私は2か月前からの土日に、図書館に1日中籠って論文を書く練習をしました。また、国が作った白書を読んだり、造園だけではなく都市計画や土木の専門誌も読んで勉強しました。

—資格をとるメリットは何ですか？

転職しやすいというメリットがあります。技術士はコンサルタント業界で必要とされているので、技術士の資格があったら仕事ができます。出産・子育ての後も復職しやすいですし、会社に属さず個人事務所を設立している方も大勢います。理工系で、独立したいという人にはおすすめです。

—宮地さんが理事を務められている「女性技術士の会」について教えてください。

女性の技術士は全体の1.7%しかいません。なので女性技術士が増えるように活動しています。若い人を育てる・情報交換・自己研鑽・海外と交流することの4本立てで活動をすすめています。

①若い人を育てる：中学校や高校に向いて仕事や資格の紹介をすることもあります。

②情報交換・③自己研鑽：色々な職種の人がいるので職場の現場を見に行きます。例えば、ダムなどです。今年は重力波の施設を見に行きました。

④海外との交流：女性技術者科学者会議という国際会議に出席して日本の現状を伝えています。来年、ロンドンで開催され、私はそこで日本のランドスケープと自然環境の関係について発表する予定です。

—最後に読者に一言お願いします。

長く仕事を続けること＝長く社会に参加することです。なにも仕事を続けることだけが人生ではありません。選択肢があることが大切だと思います。自分の好きなことをしてほしいなと思います。けれどもそのためには努力が必要です。好きなことだと努力も苦にならないですよ。好きなことを仕事にして人生を楽しく過ごしてほしいです。



宮地奈保子さん

東京農工大学農学部卒業。技術士（建築部門）を取得し、仕事の傍ら現在、NPO女性技術士の会理事長を務める。趣味は華道と茶道。

2019年度 活動報告

理系女子大生コミュニティ凛は、月に2回程度集まって、フリーペーパー作成、イベント協力や開催、Web連載などの活動を行っています。

新歓期

4月から4人のメンバーが加入しました。

4月

日本ロレアル・ユネスコ女性科学者日本奨励賞授賞式

表彰式取材しました。日本の若手女性研究者の方々に刺激を受けました。

JWEF 主催 スイーツは科学だ！



食品・食品添加物を現役で研究開発している方の解説を交えながら、小学生の皆さんとたんぱく質について学びました。

7月

フリーペーパー制作

企画案作成、打ち合わせ、取材、文字起こし、デザイン、編集を行いました。

10月

活動詳細は凛 HP 内「BLOG」へ！

講談社 Rikejo

講談社 Rikejo(<https://www.rikejo.jp>) で、先輩リケジョとして中高生の方からの質問に回答しています。連載や Instagram も更新しています。

6月

JWEF 定例会

アンコンシャスバイアスについて学びました。

8月

講談社 Illustrator 講座



Illustrator の基本動作を学び、Rikejo コンテンツのチラシを作りました。

ソニー(株)主催イベント (ソニー・サイエンスプログラム)



進路に悩む女子中高生向けに理系の魅力を伝えるイベントの企画運営を行いました。

新メンバー募集！

- フリーペーパーを作りたい人 ▶▶▶ Illustrator を使ってデザインやレイアウトを作れます
- イベントに携わりたい人 ▶▶▶▶▶ 企画から運営まで関わられます
- キャリアについて発信がしたい人 ▶▶ 企業取材の編集や、教育イベントの参加ができます



理系女子のキャリアに関心のある大学生、大学院生であれば
学年、専攻は問いません。

ミーティング見学に来ませんか？

場所：都内のコワーキングスペースなど、メンバーの集まりやすい所
時間：月に2回、メンバーの集まりやすい時間

SNS またはメールからお気軽にご連絡ください

メンバー紹介



布施谷百合香
藻類の脂質合成に関わる酵素を調べている。
ライブに行くのが好き。



上山結生
クラミドモナスを育てられるようになった。
好きな蟹は越前がに。



大堀智博
細胞内の物質輸送に関わるタンパク質を
調べている。馬を愛している。



田籠尚子
スマートコミュニティについて調べている。
趣味は旅行とドラマ鑑賞。



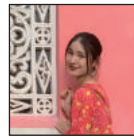
青木優美
応用化学を勉強中。好きな飲み物はカ
フェオレ。ほぼ毎日飲んでる。



高橋弥生
Illustrator をつかえるようになった。
趣味は漫画とお絵描き。



東出さら
植物の研究をしたいと思っている。
ペットはセキセイインコ。



東出あんな
生き物、自然を愛する。
好きなものはトマトとお絵描き。

編集後記

8人中7人が新メンバーでスタートしたかなりフレッシュな10・11期でしたが、何とか皆さまにフリーペーパーをお届けできたことを本当に嬉しく思います。今年のGirls.Labは、今までで一番多くの方にインタビューを行うこととなりました。理系という括りを超えてさまざまな分野でご活躍されている理系女性の先輩たちの姿に、これから社会に出る身としてたくさんの勇気や希望を頂きました。たくさんの方々のキャリア選択を纏めたこの一冊が、皆さまの進路を考えるきっかけになれば幸いです。

この本をお手に取り、最後までお読みいただきまして誠にありがとうございました。

Girls Lab. vol11 はいかがでしたか？感想を教えてください。

SNS で#凛フリベをつけて投稿、または感想フォームまで→



表紙の人



慶應義塾大学
理工学部応用化学科4年 環境化学研究室

しみず あやか

清水彩花さん

研究テーマは粒子状物質の生化学的有害性評価で、PM2.5等に含まれる成分について分析をしています。

趣味は写真と登山、カフェ巡りです。自然が大好きで最近ではキャンプやラフティングをしました。今年一眼レフを購入したので、カメラ片手に景色やスイーツを撮りに行きます。

夢は、「美」を通して多くの人の人生を豊かにすることです。もともと内気だった私は芸能活動やミスコンという自身の経験を通して「美」が人に自信を与えてくれる事を実感しました。4月からは化粧品会社で楽しく仕事に励みたいと思います。

イベント情報

理系の伝え方勉強会

講師

フリーアナウンサー
橋本恵子さん

1日目：話し方・傾聴の仕方を学ぶ

2日目：自分の専攻・研究内容を相手に伝えよう実践ワーク

対象

自分の専攻・研究内容を魅力的に人に
伝えたいと思っている女子大生の皆さん

場所

東京 23 区内

費用

500円

日時

2020
2/ 16 日・23 日 13:00~16:00

詳細は凍SNSで随時更新予定!

お申し込みはこちら

※後日詳細を連絡致します。



理系女子が強みを活かして自分らしく活躍
することを後押しする学生団体

私たちは凜です。



凜は、理系女子のためのメディアです。理系女子が社会の様々な人と繋がった広い世界のその先で、自分らしく活躍していくことを後押しするために活動しています。

凜が活動してきた10年間で理系女子を取り巻く環境は大きく変化しました。理系で学んだことを活かす場所も増え、女性の社会進出も進んでいます。しかし、未だ「女子だけ」「この専攻だけ」「理系だけ」と思う理系女子は多いはずです。私たちはそんな人たちの後押しをしたいと思います。

10周年を迎えた今年度は、中高生の進路選択に役立つ情報の発信や、「理系職」だけではない、理系女子の幅広い活躍の場の提案なども積極的に行いました。これからも凜は、理系女子の可能性を模索していきます。

輝け、理系女子。

『Girls.Lab』 Vol.11 発刊にあたり、ご協力、ご協賛いただいた企業様、日頃よりご支援くださる全国の理系女子の皆様や団体様にこの場を借りて御礼申し上げます。今後とも、理系女子大生コミュニティ凜をよろしく願いいたします。

Email rin.girls@gmail.com
HP <https://rikejyo-rin.com>

Facebook
[@rikeigirlsrin](#)

Twitter
[@rin_girls](#)

instagram
[@rin_girls2019](#)

LINE@
[@uwi9099w](#)





輝け、理系女子。

Girls Lab.2019年11月 発行 第11号

発行/理系女子大生コミュニティ凜

印刷/有限会社中央広告社

Email rin.girls@gmail.com

HP <https://rikejyo-rin.com>

